

平成22年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し
							総事業費	進捗率	事業進捗内容			
							うち工事費	進捗率				
							うち用地費	進捗率				
森林整備事業(林道事業)	1	波留相津線	松阪市	④	<p>【全体事業概要】 延長:5,838m</p> <p>【事業目的】 路網が未整備な旧飯南町西部に位置する森林の骨格的な林道として開設を行い、持続的且つ計画的な森林の整備や生産性及び公益的機能の向上を図ることを目的とする。</p>	H10	1,695	91.1%	<p>延長:4,247m</p> <p>・松阪市では、平成18年度を始期とする総合計画を樹立し、「林業基盤の整備」、「担い手の育成」、「林業の経営安定の推進」、「森林の公益的機能の推進」を施策内容として、林業の振興のため取り組むこととしており、その一環として「生産林活性化モデル事業」が実施されている。 ・松阪コンビナートにおけるスギ・ヒノキの取扱量及び平均価格を平成17年度と平成21年度と比較すると、取扱量・平均価格とも約2割減少している。</p>	<p>【費用便益分析結果】 B/C=23.0億円/21.1億円=1.09</p> <p>【コスト削減】 波形線形の計画や、流用土が活用でき残土の低減が図れる補強土壁工の採用及び路肩の縮減の実施により、コスト削減を図る。</p> <p>【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	<p>延長:1,591m 事業費:150百万円</p>	
						S	1,695	91.1%				
						H27	0	0%				

平成22年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し
							総事業費	進捗率	事業進捗内容			
							うち工事費	進捗率				
							うち用地費	進捗率				
道路事業	6	一般国道167号(第二伊勢道路)	伊勢市	③	<p><b>【全体事業概要】</b></p> <p>延長 L=7,600m</p> <p>幅員 W=6.5(8.5)m</p> <p>主要構造物 トンネル 4本</p> <p>橋梁 5橋</p> <p>松下ジャンクション</p> <p>鳥羽白木インターチェンジ</p> <p><b>【事業目的】</b></p> <p>国道167号、県道伊勢磯部線の交通渋滞を解消し、安全で円滑な交通の確保を図ります。</p>	H8	29,702	73%	<p>整備済延長 L=3,840m</p> <p>主要構造物(整備済) トンネル 3本</p> <p>橋梁 5橋</p> <p>主要構造物(施工中) 松下ジャンクション</p> <p>鳥羽白木インターチェンジ</p> <p>トンネル 1本</p>	<p>伊勢市と志摩地域を結ぶ主要な道路である一般国道167号と県道伊勢磯部線は、休日や観光シーズンに鳥羽市街地と宇治浦田町交差点部における渋滞が続いており、当該事業の必要性に変化はありません。</p> <p>また、県立志摩病院は、長年にわたり志摩地域の救急医療を担っていますが、医師数の減少により、平成21年3月から内科、平成22年7月から外科の救急体制が縮小され、志摩市内から伊勢市への救急搬送が増加しています。このことから、救急車両の円滑な通行のため、当該事業への期待が高まっています。</p>	<p><b>【費用対効果分析】</b></p> <p>B/C=2.4</p> <p><b>【コスト削減】</b></p> <p>橋梁整備において、少数主桁の採用による建設コストの削減や、耐候性鋼材の使用による維持管理コストの削減を図っています。</p> <p><b>【代替案の検討】</b></p> <p>事業の進捗状況及び費用対効果分析結果から、代替案はありません。</p>	<p>平成24年度の全線供用に向け事業を推進します。</p>
						H24	2,750	100%				

平成22年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し
							総事業費	進捗率	事業進捗内容			
							うち工事費	進捗率				
							うち用地費	進捗率				
道路事業	7	一般国道167号(鵜方磯部バイパス)	志摩市	③	<p>【全体事業概要】</p> <p>延長 L=7,650m 幅員 W=6.5(12.25)m</p> <p>主要構造物 磯部トンネル</p> <p>橋梁 5橋</p> <p>【事業目的】</p> <p>志摩市市街地の交通渋滞を解消し、安全で円滑な交通の確保を図ります。</p>	S61	13,346	83%	<p>供用延長 L=4,210m</p> <p>主要構造物(整備済) 磯部トンネル</p> <p>橋梁 3橋</p> <p>主要構造物(施工中) 橋梁 2橋</p>	<p>現道は、朝夕、休日や観光シーズンに志摩市市街地における渋滞が続いており、当該事業の必要性に変化はありません。</p> <p>また、県立志摩病院は、長年にわたり志摩地域の救急医療を担っていますが、医師数の減少により、平成21年3月から内科、平成22年7月から外科の救急体制が縮小され、志摩市内から伊勢市への救急搬送が増加しています。このことから、救急車両の円滑な通行のため、当該事業への期待が高まっています。</p>	<p>【費用対効果分析】</p> <p>B/C=3.0</p> <p>【コスト削減の可能性】</p> <p>橋梁整備において、少数主桁の採用による建設コストの削減を図っています。</p> <p>また、切土法面の法尻部にコンクリート張工を施工し、除草に要する維持管理コストの削減を図っています。</p> <p>【代替案の検討】</p> <p>事業の進捗状況及び費用対効果分析結果から、代替案はありません。</p>	平成27年度の全線供用に向け事業を推進します。
						H27	4,119	97%				

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						総事業費	総事業費					
						当初	最終					
港湾事業	501	長島港西長島地区	紀北町	<p><b>【事業概要】</b> 防波堤 385m 岸壁 (-4.5m)300m (-5.5m)90m 物揚場 (-4.0m) 40m (-3.5m) 35m 泊地 (-5.5m) 8,750㎡ (-4.5m) 7,518㎡ (-3.5m) 490㎡ 臨港道路 845.1m 導流堤 120m</p>	S55	H14	5,785	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾整備前は、係留施設不足による滞船が生じていたが、今回の整備により改善が図られ、業務コストが削減された。また背後地の造成により交流機会の増加が図られた。</li> <li>・耐震岸壁の整備により、緊急時における物資の輸送コストが削減され、また震災時における被害への不安の軽減、震災後の事業活動への不安の軽減、緊急物資輸送による地域住民の生活の維持等の効果が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震強化岸壁の整備により、震災後一般貨物輸送によるCO2の排出量を年間33.4トン削減することが期待出来る。</li> <li>・係留施設の整備により、滞船時のアイドリングによるCO2の排出量を削減することが期待出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長島港の入港船舶隻数の平成11年から平成20年まで10年間の推移は、およそ25,000隻前後で横ばいの推移を示していますが、直近の平成20年は約21,000隻と減少傾向となっています。</li> <li>・また船種別では殆どが漁船となっています。</li> <li>・長島地区の漁船隻数の推移は、昭和60年から平成12年までの15年間は、ほぼ横ばいの推移を示していますが、平成12年から平成17年の5年間で約半数に減少しています。</li> <li>・長島港の取扱貨物量の推移は、平成11年から平成20年まで10年間の推移は、平成12年は2万4千トンでしたが、平成13年から石材の取扱量が増加し、平成14年には29万トンに達しました。</li> <li>・その後、おおよそ20万トン程度で推移してきましたが、平成20年には1万8千トンに減少しました。</li> <li>・直近の平成21年は前年とほぼ同様の1万9千トンとなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型船だまりの整備による安全面、荷役効率等について、効果を感じているとの回答が感じているとの回答を上回っている。</li> <li>・耐震強化岸壁の整備による不安の軽減について、約半数が効果を感じていると回答している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震強化岸壁の整備および効果について、周辺の住民へのさらなる認知度向上を図る。</li> <li>・町がハザードマップを2回配布している。今後も引き続き、さらなる啓発活動を推進する。</li> </ul>
				<p><b>【事業目的】</b> 漁船の大型化や陸上トラック輸送へ対応する港湾施設整備により、漁業活動の効率化を図る。 また、地域防災計画に位置付けられた耐震強化岸壁を整備し、地震時における輸送路の確保を図る。</p>								

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初					
						最終	最終					
海岸	502	道瀬地区	紀北町	<p>【全体事業概要】 突堤 2基 (L=183m) 養浜 78,350m<sup>3</sup> 砂止潜堤 L=228m 排水工 L=121m</p>	H6	H18	1,172	<p>道瀬地区海岸は、台風などの高波時には越波により、背後人家の安全は危惧される状況となっていたが、平成17年度の事業完了後、多数の台風が上陸しないし接近したものの、背後の人家等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。</p>	<p>当海岸は吉野熊野国立公園内の恵まれた自然環境にあり、また海水浴や釣りなどの利用者が多い。そのため、海岸に設置した突堤や排水路は、来訪者の利用や自然景観との調和を考慮し、自然石を用いて整備を行った。</p>	<p>・道瀬地区の世帯数は事業完了時の平成17年から変化はなく、依然として防護の必要性は高い。 ・当海岸周辺には平成16年に世界遺産に登録された熊野古道があり、海岸堤防は散策ルートの一部として多くの散策者に利用されている。 ・当海岸周辺では高速道路の整備が進められており、平成24年度には紀伊長島インターが開通予定である。来訪者のほとんどが車を利用しており、高速道路の延伸により移動時間が短縮されるため、海岸を訪れる方の増加が期待できる。</p>	<p>・平成22年9月に道瀬地区海岸周辺の住民(77世帯)に対してアンケートを実施。 また平成22年7月末から8月上旬の5日間にかけて道瀬地区海岸の利用者(69組)に対して聞き取り調査を実施。 工事の目的について52%の方が認知しておりましたが、40%の方がご存じありませんでした。 ・安全面に関する満足度 「満足」+「どちらかといえば満足」57%、 「不満」+「どちらかといえば不満」15% ・海岸環境・景観保全に関する満足度 「満足」+「どちらかといえば満足」45%、 「不満」+「どちらかといえば不満」10% ・海岸利用者の満足度 「満足」+「どちらかといえば満足」97%、 「どちらかといえば不満」3% ・事業全体の満足度 「満足」+「どちらかといえば満足」57%、 「不満」+「どちらかといえば不満」9%</p>	<p>課題・問題点 ・津波への対応 ・工事内容などの周知不足 今後の留意事項 ・津波に対する避難啓発の推進。 ・避難時間を確保するため陸間動力化の推進。 ・計画段階で地区住民に対して事業の目的や内容等について十分説明し、地域の意見を反映していく。</p>
				<p>異常気象時の高潮・波浪等から海岸背後地の生命・財産を守るとともに、快適な海岸環境を整備する。</p>		H17	1,146					

平成22年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初					
						最終	最終					
海岸	503	阿津里浜地区	志摩市	<p>【全体事業概要】 人工リーフ 140m(1基) 突堤125m(1基) 緩傾斜護岸471m 養浜61,900m<sup>3</sup> 排水工66m</p> <p>異常気象時の高潮・波浪等から海岸背後地の生命・財産を守るとともに、快適な海岸環境を整備する。</p>	H5	H17	2,537	<p>台風などの高波時には越波により、背後人家の安全は危惧される状況となっていたが、平成17年度の事業完了後、多数の台風が上陸ないし接近したものの、背後の人家等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができた。</p>	<p>当海岸は伊勢志摩国立公園内に位置していることから、人工リーフを採用し、海面上に消波ブロックが突出しないようにした。また、突堤や排水工の被覆材については、ブロックの代わりに石材を使用した。</p>	<p>・当海岸の背後は、多くの利用者が毎年訪れるオートキャンプ場や、観光施設が整備されているため、防護の必要性は依然として高い。</p> <p>・当海岸では、養浜の整備を平成12年～13年に実施後しており、養浜実施後の平成16年度以降、海水浴等を目的としたキャンプ場利用者数が増加傾向になっている。これに伴い海岸利用者数も増加していると推測される。</p>	<p>・平成22年9月に阿津里浜海岸の周辺住民(35世帯)に対してアンケートを実施。また平成22年7月末から8月中旬の5日間にかけて当海岸の利用者(289組)に対して聞き取り調査を実施。</p> <p>・安全面に関する満足度「満足」+「どちらかといえば満足」92%、「不満」+「どちらかといえば不満」10%</p> <p>・環境面や景観面に関する満足度「満足」+「どちらかといえば満足」76%、「不満」+「どちらかといえば不満」18%</p> <p>・当事業が地域活性化に寄与したかという質問「活性化が図られた」55%、「活性化が図られていない」10%</p> <p>・事業全体の満足度「満足」+「どちらかといえば満足」10人、「不満」+「どちらかといえば不満」0人</p> <p>・海岸利用者の満足度「満足」+「どちらかといえば満足」88%、「不満」+「どちらかといえば不満」10%</p>	<p>課題・問題点 ・事業着手時には、地元住民との間で十分な意見調整を図る仕組みが確立していなかった。 ・海岸利用者が、当海岸をもっと快適に利用出来ることを望んでいる。</p> <p>今後の留意事項 ・事情効果について分かりやすく、十分な説明を地域住民の方に対して行う。 ・利用面に配慮した海岸とするため、事業実施前に地元の観光部局や、背後の地域の方々と調整を行い、改善策を見いだしていく。</p>
						H17	2,103			<p>平成17年の志摩大橋の完成により、当海岸まで国道260号バイパスを経由して行けるようになった。バイパス開通前の現道は、幅員が狭く、自動車のすれ違いが困難で、観光シーズンには混雑が発生していたが、バイパスの開通により円滑な通行が確保され、利用者数の増加に寄与したと考えられる。</p>		